

# 「楽しむ減災」子どもを対象とした減災教室の実践

岐阜大学 地域システムデザイン研究グループ 大井晴奈 三荒智也 高木朗義 NPO 法人レスキューストックヤード

## chapter 1 活動背景と目的

東日本大震災において、減災に関わる学校教育が子どもの命を守ることに繋がった。迫りくる東海・東南海地震に向けて、各地で減災に関する取り組みが計画されるなか、**学校や地区側は、具体的にどんな減災活動を行えば良いかわからないことがあるのも事実**である。減災に関する学識を持つ大学機関が、小学校の学校教育に参加することには大きな意義があり、災害からの被害を最小限にとどめることができると考える。

岐阜県では、平成20年に各学校や地域がそれぞれマニュアルを作成するための手引きとして「学校安全管理・教育の手引き」を作成している。この中では、授業内の教育に加え、教育方法の1つとして「家庭・地域社会と合同の防災（避難）訓練を行う」ことも記載されており、**学校教育と家庭・地域との連携が必要**とされている。

本活動では、私たち大学機関が学校・地域入り、減災に関する学校教育を行う。NPO法人レスキューストックヤードがまとめている資料「まめ豆知識」を教材とし、**子どもでも分かる簡単な内容に心掛ける**とともに、子どもを含め、**学校や地区の人にもノウハウを身につけてもらう**ことを狙いとしている。

私たちは、今後も地区や小学校での減災教室を継続的に開催することで、幅広い年代の住民の方々に減災について考える機会を提供し続けていきたい。そして、最終的には、学校や地区の人だけで減災教育ができるような体制になることを期待する。



減災教室の対象地

## chapter 2 減災教室の活動内容

### ▶ 子ども向けの減災教室の活動概要

開催日	開催場所	参加人数	実施内容
2011.9.25	岐阜市日置江地区防災訓練	約100名	・カッパ・長靴づくり教室 ・「真結び」「缶包み」教室 ・輪ゴムづくり教室・的当てコーナー ・マット・おやすみBOX&枕 体験コーナー
2012.5.27	羽島市竹鼻南地区防災訓練	約120名	・「ノート（紙）」が「じょうご」に大変身！ ・何を使ったら切れるかな？世界一受けたい授業編 ・「ゴム手袋」が「輪ゴム」に大変身！ ・風呂敷でどれだけ重い物が持てるかな？
2012.9.30	岐阜市日置江地区防災訓練	約100名	・ツナ缶ろそうきづくり ・ホットドックづくり
2012.10.27	岐阜大学付属学校 父親の会 秋のイベント	約80名	・ダンボールとゴミ袋で水タンク ・ペットボトルでコーヒー ・ツナ缶によるアブラソブ ・新聞紙・風呂敷の活用
2013.5.26	羽島市竹鼻南地区防災訓練	約120名	・針金ハンガーがトイレトーパーホルダーに ・ひもの結び方教室 ・ダンボールいす・ついたてづくり

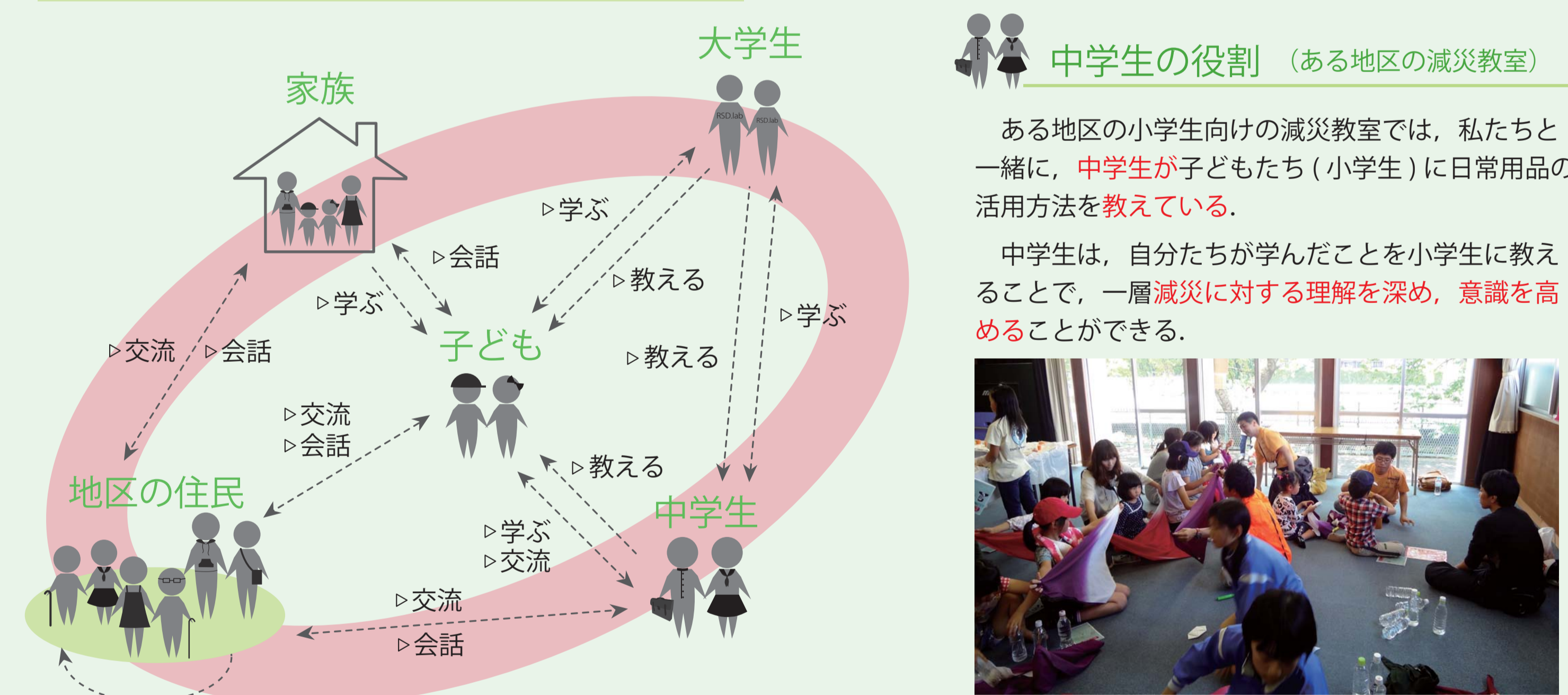
### ▶ 使用する教材：「まめ豆知識」 by NPO 法人レスキューストックヤード



## chapter 3 「楽しむ減災」のねらい

- point 01** 子どもが**遊び感覚**で減災について学ぶことができる。  
減災に対して、子どもたちが抵抗なく学ぶことができる環境づくりを意識している。ゲーム形式のブースを作ったり、キャラクターを作成したりして、減災について楽しく学べる「場」を提供している。
- point 02** 日用品を使うことで、子どもにとって**減災活動が身近**になる。  
NPO 法人レスキューストックヤードが、災害時に日用品を有効に活用する方法を、「まめ豆知識」にまとめている。「まめ豆知識」を教材とし、生活用品を用いた減災教室を開催することで、減災活動を身近に感じることができる。
- point 03** 子どもを通して、**家族間で減災について考えるキッカケ**となる。  
一般に、30～40才代の防災訓練等への参加率は低いと言われている。そのため、子どもを通して親世代が減災について学ぶこと、減災について家族間で話す機会を提供することを狙いとしている。

### ▶ 子どもを対象とした減災教室のしくみ



- 子どもたち(小学生)の学び**
  - 中学生や大学生から教えてもらうので、**親しみやすく**学ぶことができる。
  - ゲーム形式で、**楽しく**減災について学ぶことができる。
  - 減災教室について家族と会話することで、減災について考える機会が生まれる。
  - 小学生のときから減災について学ぶため、**減災活動が身近なもの**となる。
- 家族の学び**
  - 減災教室に関する**子どもとの会話を通し**、減災活動について知ることができる。
  - 「まめ豆知識」があるため、家で**子どもと一緒に**日用品の活用方法を勉強できる。
  - 家族間で、**減災について話し合う機会**が生まれる。
  - 日用品が非常時に活用できると知り、減災活動が**身近なもの**となる。
- 地区の住民の学び**
  - 地区内の近所や知り合い方、子どもたちとの**会話を通して**、減災活動について知ることができる。
  - 各家庭の減災に対する意識が高まると、**地区内の減災意識も高まり**、近所で助け合う。
  - 身近なもので簡単に、減災活動ができることを知り、自分たちだけでも減災教室を開催できることを学ぶ。

### 地区の住民の声

中学生が小学生に教えることで、中学生の意識が少し変わったと思う！  
羽島市竹鼻南地区 主催者  
ツナ缶が非常時に役に立ってますね。今度少し多めに買っておきます！  
岐阜市日置江地区 主婦  
帰ってから、家でもやってみようか！  
岐阜市日置江地区 参加者親子  
これだったら私も小学生に教えられます！  
羽島市竹鼻南地区 中学生

### ▶ 活動のポイント

- 01 キャラクターを通して学ぶ。**  
楽しく減災について学ぶ  
「ほーんくん」  
ダンボールの保温(ほおん)性を伝えるためのキャラクター。  
プロフィール  
▶ 出身地：日置江(開催地)  
▶ 名前の由来：ダンボールの持つ保温性から。  
▶ 趣味：みんなにダンボールの暖かさを伝えること。など…  
キャラクターの特徴から、減災活動について学ぶことを狙いとしている。
- 02 ゲームを通して学ぶ。**  
スタンプラリーで減災マスターに  
・ゲーム形式  
子どもが、ゲーム感覚で楽しくブースを回り、減災について学ぶことができる。  
・スタンプラリー  
ゲーム形式を含む3・4つのブースを用意しており、**全てのブースをクリアすると「減災マスター」として認定される**。  
遊びながらブースを回ること、自然と多くのブースを回り、学ぶことができる。
- 03 「まめ豆知識」冊子のプレゼント。**  
家で学ぶことができる  
NPO 法人レスキューストックヤードが発行している「まめ豆知識」冊子を、配布している。  
冊子には、減災教室で行ったことに加え、他の様々な日用品の活用方法が記載されている。

- 「まめ豆知識」の冊子を配布することで、
- 家に帰って、日用品を使った減災について学ぶ
- 家族と一緒に、減災について学ぶ
- ことができる。

子どもの減災教室を通して、親世代も減災について知識を得ることができる。また減災に対する意識が高まることで、**家族間で話し合う機会**を提供することができる。

